

第2学年 道徳学習指導案

日時 平成15年10月8日(水) 5校時

場所 一関市立中里中学校2年教室

学級 2年A組(男16名 女7名 計23名)

指導者 教諭:中村竜也

- 1 主題名 差別・偏見の克服
4-(4) 正義、公正公平、差別・偏見の克服

- 2 資料名 ゴールをめざして

- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

指導項目4-(4)は、だれに対しても公平、公正に接し、社会連帯の精神を持って差別や偏見のないより良い社会の実現に尽くすような生徒を育てようとする内容項目である。

差別や偏見がいけないことは誰でも知ってはいるが、自己中心的な考え方や行動をしがちな社会一般の中で中学生も例外ではない。

本来、社会生活は多くの人の善意と努力によって支えられ、成り立っているが、物質的な豊かさや情報の氾濫などにより、自分さえよければ他人はどうでも良いという無関心さや集団の中で自分の責任を果たそうとしない無責任さが出始め、「誰かがやるだろう」「何故、自分(たち)がやらなければならないのか」といった自己本位の考えに偏る傾向にある。そんな社会的風潮の中で、誰に対しても差別や偏見を持たずに、公正、公平に接し振る舞うことは、人間としての生き方において非常に重要な課題であると考えられる。

本資料の中でも、自分の思い込みで『思いやりの気持ちでかけた言葉』が相手には『特別な目で見られるのがつらくもあるんだ』という自己本位の考えだけで、相手の本当の気持ちを理解できずに偏見の目で見えてしまっている場面もある。そういう場面が今までになかったかどうか、又『してあげる』的な発想で生活していないかどうか振り返らせてお互いに支え合ってより良い社会の実現を目指すよう考えを深めさせたい。

(2) 生徒の実態について

明るく素直な生徒達である。日常の生活の中では、男女ともに関わり合いを持ちながら活動をしている。ほとんどの生徒が幼稚園の頃から一緒に学校生活を送っており、友達関係や学級内の力関係が固定化しがちである。

道徳の授業では、積極的に発言しようという姿勢はあまり見られないものの、自分なりの考えは持っており、指名発言ではしっかり発表しようとする生徒が多い。

本学級の生徒たちは、いじめなどの問題はないものの、お互いを良く知りすぎているためか、初めから「できそうだ」「無理だ」と決めつけて接することがある。又、障害のある人と一緒に生活したり、接したことがある生徒は2名と少ない。

半数以上の生徒が実際にはボランティアなどの実体験がない状態であるが、総合学習で行った福祉ワークショップでは意欲的に活動した。

(3) 資料について

体育祭の学級対抗全員リレーで、右足の不自由な宏典に対して「無理をしないで見学していたら。」という健。それに対して「ぼくも学級対抗全員リレーで走るよ。」「自分がどこまでできるか試してみたいんだ。」という宏典。

練習が始まり、思うように走れない宏典に対して健がいらだちを感じているが、「走るのが楽しい」と宏典は話す。戸惑う健。というふうに見かけの足のことで、宏典の本当の気持ちを理解できていない健が、テレビで観た車椅子のマラソンから、自分が偏見を持って宏典と接していたことに気がつき、真の公平とは何かという事に気づいていく姿が書

かれています。

本資料では、健の心情に焦点を当て、『健の心の変容』や宏典の『本当の気持ちを』を追いながら、価値を追求把握する事を通して、互いに認め合い、支え合っていくことの大切さについて深く考えさせたい。

4. 指導について

(1) 導入の構想

福祉祭りの写真を見せ、障害がある人の生活の大変さを考えさせると共に、自分の周りにハンデのある人がいた場合、どのような接し方になるか考えさせる。

(2) 展開の構想

学級対抗全員リレーの走順を決めるときに、足の不自由な宏典に対して「無理をしないで見学していたら」とか「つまづいて転んじゃったじゃないか」「大丈夫なの」という意見が出されたが、宏典を心配して宏典に対する『思いやり』の気持ちから出た意見であることを押さえる。しかし、そう言う意見に対して宏典は「ぼくも学級対抗全員リレーで走るよ」「このリレーにかけてみたいんだ」と言っているのは、どんな気持ちからなのかを考えさせ、宏典のみんなと一緒に頑張っていきたいんだという思いや、差別しないで普通に接して欲しいと言いたい気持ちに気づかせる

次に、練習を始めてみて、周りが「やっぱり無理じゃないかな」という思いを持ち始め、健も無理して走っているように見える宏典が痛々しく思えて「なんで、そんなに無理して走るんだ。みんなも心配しているよ。」と言ったときに宏典が答えた「特別な目で見られるのがつらくもあるんだ」という言葉の中に込められた本当の思いに気づかせ、健常者の主観的な思いだけで接していると、障害があっても可能な限り頑張ろうとしている人にとっては偏見の目で見られ、差別されていると感じてしまうことを分からせる。この時点でも周りとは温度差があることも確認する。

健が『はっ』として宏典に会いたくなった場面では、車椅子マラソンの中で全身の力を振り絞って車椅子を走らせるランナー、それを支え見守る仲間たち、ゴールした瞬間のみんなが喜び合う様子、互いの健闘を称え合う姿から、自分が宏典に対してどう接すれば良いかに気づいた健の心の変容を的確に捉えさせるために、個人の考えをしっかりと持たせた上で、価値へ近づかせたい。

価値の自覚では、何故健は、宏典の「ありがとう。」「本当はぼく、自分には無理だと思いはじめていたんだ。でも、あの日曜日、君に声をかけてもらって、(よし、頑張ろう)という気持ちにもう一度なれたんだ。嬉しかったよ。」という言葉聞きながら自分が恥ずかしくなったのかを考えさせると共に、差別や偏見を持たずに公正、公平な態度で接することがボランティアにつながるのだという事を各自に捉えさせる。

(3) 終末の構想

教師の説話をし、余韻を持って終わらせたい。

5 本時の展開

(1) ねらい

相手の本当の気持ちを理解し、差別や偏見のない公平、公正な態度で接し、共に支え合う心情を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動	予想する生徒の反応	指導上の留意点	評価
導入	1. 福祉祭りの写真を見せ、話し合いの方向性を明らかにする。 ○周りにハンデを持った友達がいたら、みんなはどう接しますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・大変なんだなあ ・できないことがあれば手助けをするけど、特別扱いはしない。 ・気を使ってしまう。 ・みんなと同じようにやりたいことをやらせてあげる。 ・優しく接する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の周りにハンデを持った友達がいたらどんな接し方をするとするか考えさせる。 	
価値の追求	2. 資料を読み、内容について話し合う。 ・登場人物の確認 ○健はどんな気持ちから「君は無理をしないで見学したら」と言ったのだろう。 ○健は宏典に対して、どうしていらだつようになったのだろう。 ○何故、健はもやもやした気持ちになったのだろう。 ○健は、どんな気持ちから「宏典、頑張れ」とさげんだのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・健 宏典 彰 香奈子 佐藤先生 ・100歩も走るの大変だと思った。 ・脚が悪いから無理だと思った。 ・怪我が心配だ。 ・走らせるのはかわいそうだと思った。理だと思ったから。 ・自分の気持ちを分かってくれない。 ・痛々しく思えてしかたない。 ・なんで止めようとしめないのか。 ・みんなの話を聞くのが嫌だ。辛い。 ・辛そうなのに、無理をしている。 ☆健の気持ち <ul style="list-style-type: none"> ・「無理をしていない」という宏典の気持ちが分からない。 ・宏典の言葉に「えっ」と思った。 ☆宏典の気持ち <ul style="list-style-type: none"> ・走ると気持ちいい。 ・自分に挑戦する。思いっきり走る。 ・特別な目で見られるのが辛い。 ☆佐藤先生の言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しそうに走っているように見える。 ・間違っって見ているような気がする。 ・必死に走っている宏典の姿を見たから。 ・宏典を見守り、支えてあげることが自分の役割だと思ったから。 ・間違っって見ていることに気づいた。 ・宏典の本当の気持ちが分かったから。 ・宏典がここまで頑張っているのだから、自分が最後まで一緒に頑張る。 ・脚が不自由でも、宏典はみんなと一緒に走りたんだ。そのために、頑張っているんだと思ったから。 ・今までは、足が不自由だから宏典には無理だと思っていたけど、自分が支えるから、最後まで一緒にやろうという気持ち。 ・自分の宏典を心配している気持ちが本当は、宏典に対して差別していることだったのに、そんな自分を許してくれている宏典の偏見を持たずに接してくれる心が自分にはなかったから。 ・今までの自分の態度を恥じているから。 ・最初から、宏典には無理だと決めつけてしまって申し訳ない。 ・脚の怪我のことで、宏典を特別な目で見ている自分が恥ずかしい。 ・自分の思い込みだけで、人を判断していたことが恥ずかしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に健と宏典の仲の良さ、宏典の脚の具合を押さえる。 ・純粋に宏典を心配している健の心情に共感させる。 ・自分ならこんな時、どんな言動をとるかも考えさせる。 ・心配している自分たちと、宏典の気持ちの差に気づかせる。 ・宏典や佐藤先生、香奈子の言葉から、健の心が揺れ始めていることに気づかせる。 ・無意識のうちに、差別や偏見の目で見ている自分に気が付き、一緒に頑張っていくことが大切だと分かった健の心の変容を捉える。 ・自分の今までの態度を恥じ、謝りたいという気持ちと共に、宏典のようにハンデを持った人への望ましい接し方を考えさせる。 	<p>【道徳的心情】 仲の良い健が、宏典の脚のことを心配している気持ちが分かったか。 (発言)</p> <p>【道徳的心情】 健の気持ちと宏典の気持ちの差に気づくことができたか (発言)</p> <p>【道徳的心情】 健の心の葛藤が分かったか。 (発言)</p> <p>【道徳的判断】 主観だけで、決めつけることは差別や偏見につながるかが分かったか。 (発言)</p> <p>【道徳的価値の自覚】 ・差別偏見を無くしてどの人にも公平、公正に接することの大切がわかったか。 (学習シート・発言)</p> <p>どの人にも公平、公正に接することの大切がわかったか。 (学習シート・発言)</p>
まとめ	4. 本時のまとめをする。		・教師の説話でまとめる。	

ゴールをめざして

体育祭二週間前

学級会

全員リレーの

出場メンバーを

決める

「君は無理をしないで見学したら」

・怪我をしたら大変

・一〇〇歩も走るのは無理

心配だ

次の日から

放課後のリレー

練習開始

・痛々しくて見てられない

・諦めない宏典が分からない

・みんなの言葉を聞きたくない

自分の気持ちを分かってくれない宏典にいらだつ

「無理だ」という話

自分の気持ちを分かってくれない宏典にいらだつ

三日後

練習中に宏典に

話しかける

「頭の中が混乱する」

・「無理はしていない」という宏典が分からない

・宏典の言葉に「えっ」と思った

・先生には楽しそうに見える

「間違ってみているような気がする」という言葉

もやもやした気持ち

日曜日

テレビの

車椅子マラソン

思わず「頑張れ」と

さげぶ

「はっ」とした

・必死で頑張っている姿を見たから

・宏典を見守り、支えなければと思った

・本当の気持ちに気づいた

・間違っって見ていたことに気づいた

体育祭当日

「ありがとう」

恥ずかしくなった

・宏典を自分とは違うと思って見ていた

・初めから無理だと決めつけていた自分を許してくれた

・今までの自分の態度が恥ずかしい

特別な目で見ていた自分

道徳学習プリント

ゴールをめざして

氏名 _____

☆何故、健はその言葉を聞きながら、自分が恥ずかしくなったのだろう。

◎授業を振り返って

1. 進んで考えが持てましたか

A B C D
|_____|

2. 今日の話し合いを通して、色々な考え方があ
ることが分かりましたか

A B C D
|_____|

3. みんなの意見を聞いて、自分の考えが変わっ
たり、迷ったことがありましたか

A B C D
|_____|